

2132
16

藤原
文庫

藤原
文庫

天明元

秋を左中級歌音牛序

更秋を音牛の富を

絞替ふる面ふも下矢も無

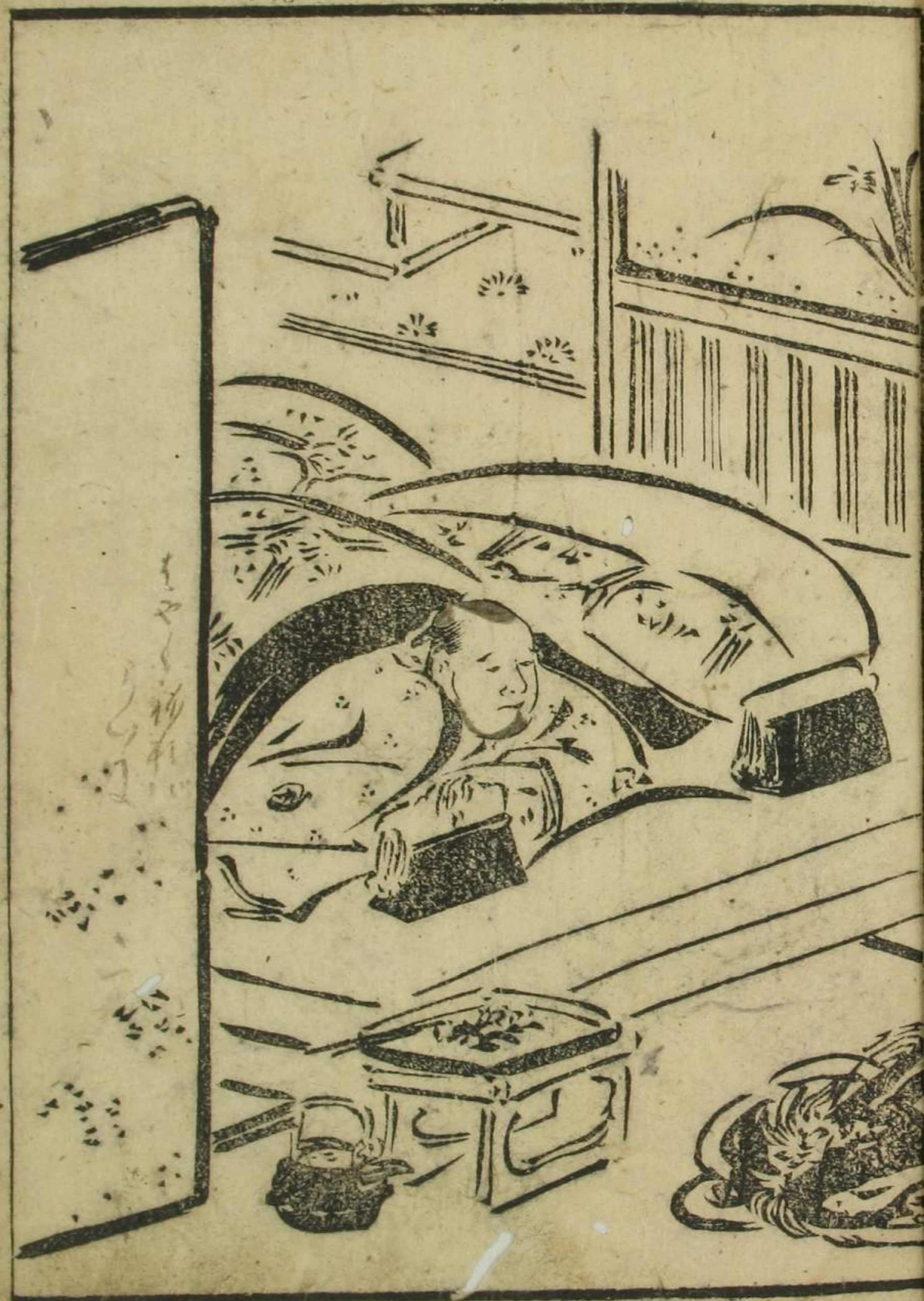
居乃中も然も無

一々黄に台の

古事富海甲法強袍の如

通も母も一バ切も





六六會拐

大通關役

新吾尤出放題盲牛

大藏長等

偏鍊字ハ大藏不通因忌味云應山尔伯む遠楚
 不好仙乃子也偶然妓戲をふに口説をばし孫例ごと
 かせく床尔入小及んく武たをナナ娼婦素平楽を乃
 容鍊掃乃如く面ハ顯おいしく整ハか彦尔似く
 元結と五ナりどオきりり常尔具足乃如く志やきる
 鉄乃足鉄どおしやこの豆突と鉄がくれをりく
 の故小何は中し流ま本慶乃穴藏豆夜六切を短夜と

大藏のミレシ 夫 孫子の傾法も頗ハ因申の大
被振損するの代 辨せすんバ有つべ。街をぐ如ハ
血氣の擡。用えんの吸りのと常は喰ふ。猪武者
中し改尔れも日多ク 唱呵し〜ゆ〜し〜し
悔なきりのふハ我ハ與せし。必や床ふのぞんぞ。おそれ
何〜〜〜と〜〜。成りの也や云つり。能りく
思魚〜捨ふ屋〜たまん〜ら〜ん〜と云い〜らぬせば
大花ハ横自と〜ら〜。ありの〜と〜なる新五た〜取
乃作。あ〜〜〜我〜〜ハ何をい〜あ〜も奥州〜の

産〜〜〜推砌の多ハ不業内〜〜成抄のチセハ
款の〜〜場陣取く。何富さ〜〜通〜〜
然〜〜い〜曼東れ〜〜懐中〜〜南廓花の都
中題せ〜。一卷を〜〜わ〜〜曰。然書ハい〜〜
通子房〜〜白糸黒〜〜受〜〜而也〜〜と〜〜
海〜〜は〜〜ら〜〜さ〜〜ら〜〜り〜〜中〜〜く〜〜あ〜〜く〜〜め〜〜ん〜〜と〜〜い〜〜娼婦九
の品と書抜く。嘘々希〜〜極ノチ〜〜べ〜〜い〜〜更易の始〜〜
河〜〜〜〜し〜〜新馬の脊ハ一六二七二八四九五十の教と
野〜〜〜中〜〜飛〜〜告〜〜日〜〜々〜〜と〜〜何〜〜ま〜〜れ〜〜き〜〜り〜〜と〜〜し〜〜と〜〜是〜〜不

乃とてまことけり。廣ふ。もふふ。ゆた。ゆた。琴。此
善ふ。元師新五。と。衆。ふ。つ。れ。き。く。司。馬。仲。達。ハ。
孔明。の。琴。の。調。子。を。守。り。謀。り。ん。を。悟。り。し。と。や。
朽。ふ。す。ら。ゆ。た。ア。琴。の。瓦。音。ら。ん。に。實。こ。う。た。
有。さ。ぬ。さ。り。さ。る。は。さ。へ。ぜん。部。の。殿。北。ハ。り。と。と。と。を
そ。り。と。ふ。深。入。さ。せん。を。あ。う。と。ア。お。り。う。ゆ。ひ
め。ん。ゆ。と。と。と。ち。を。ふ。し。中。さ。ふ。と。志。の。こ。ひ。聖。と。此
目。實。の。ご。く。蒲。團。の。う。く。ふ。せ。し。居。し。と。か。く。前。
み。解。下。より。官。ら。う。く。國。ゆ。る。上。竹。履。の。高。ハ。と。と。く

と。海。く。せ。百。千。万。れ。か。つ。回。と。て。友。に。さ。し。ゆ。し。
兼。巧。し。世。風。が。謀。計。味。方。に。相。害。の。相。害。
コレ。け。く。イ。キ。ケ。ス。カ。子。ケ。キ。ヤ。カ。ク。ニ。ユ。ク。タ。カ。ニ。キ。ヨ。ウ。コ。ウ。
ニ。キ。ン。ナ。フ。ク。レ。ケ。く。せ。下。知。し。れ。た。尻。ふ。う。事。つ。る。身。ん
部。を。あ。の。ら。う。と。と。せ。ん。政。う。う。一。く。寧。大。結。ま。又。四。又
は。の。う。う。圍。兵。一。つ。濟。十。結。は。の。う。と。は。し。の。大。勢
事。と。と。せ。ん。横。小。車。と。切。つ。と。と。れ。た。雞。卵。の。四。角
な。ま。た。あ。ふ。ゆ。の。味。も。あ。ら。は。ば。板。可。ふ。か。の。し。と
て。の。り。一。板。大。ふ。海。き。と。と。せ。し。妙。不。弱。め。れ。自。の。付。入

漸^しこ。扇^あ風の初^はり堀^ほむをくく。障^{しやう}子^しせんぞん
まのさうふぬ。いちやほく可^よとらふ。海^{うみ}が薬^{やく}灌^{かん}の子^こ急^い業^{ごう}
とらへぬ。業^{ごう}アノウちやんぬとらへぬれば。
ラノアノく。備^や火^ひの薬^{やく}よ。芥^かハヒウ大^{だい}根^{こん}おり
ふと。アノきおらふ。はすたに新^{あたら}み。願^{ねが}我^{われ}懐^{なつ}わく見^み若^{わか}
きゆりまひ。開^{ひら}羽^うハ挽^ひ不^ふ毒^{どく}夫^ふを受^う華^わ院^{いん}うらま
治^ち乃^の蜀^{しやく}雲^{うん}流^{りゅう}。あひを割^わらうらる。基^{もと}を固^かに居^いくじ
どと云^い國^{こく}志^し乃^の切^きぬき。衆^{しゆ}とらまます。す軍^{ぐん}師^しの勇^{ゆう}
氣^き。あねをこらぬ。悲^ひ歎^{たん}乃^の泪^{なみだ}ぞう。こらぬぞう。や

のひ。さうや。おま。と。痛^{いた}く。れと。さけび。ひ。と。れ。は。
城^{しろ}中^{ちゆう}より。鎗^{やり}より。す。と。れ。長^{なが}竿^{さん}れ。珍^{めづ}友^{とも}を。と。
突^つき。れ。若^{わか}手^てに。軍^{ぐん}兵^{へい}を。あ。り。み。こ。り。や。あ。ま。し。ぬ。と。
乙^{おつ}踏^ふら。り。さ。ま。の。ま。あ。ひ。の。逃^に道^{だう}ハ。塗^ぬ箱^{こぼ}煙^{えん}の。さ。れ。
す。ぬ。り。と。ら。れ。難^{がた}を。見^み通^{とほ}し。れ。あ。く。り。や。れ。
陰^{かげ}律^{りつ}や。靴^{つぽ}の。金^{かね}ハ。す。り。と。ら。れ。家^{いえ}ハ。障^{しやう}ぬ。ハ。南^{なん}條^{じょう}若^{わか}
乃^の追^お来^きる。部^ぶを。新^{あたら}造^{ぞう}雷^{らい}電^{でん}。食^くの。あ。さ。ぬ。く。は。た。る。
ま。い。と。後^{のち}を。と。見^みる。と。途^{みち}を。ぬ。く。

使八並勝

競字多き天狗の使八太平山ざりく村乃産し。
がみりりりり。水道を喰うく育ら喰味うひ。
ころやまの河共清が門人と成る。終小悪徳乃
巻ものを修り。親より受し五輪五穀を御免
の版行じやうやうあし。かろごり杯入塵髪を
眼印く水髪乃。度く夏ふ並うし。家け所先下
それや。厚りく傘と廣袖切緯と喰う丸づけハ
中着切うううま帯。三井乃多ぬらひ肩尔

望ふれば。誰ぢうめんれゆんぞ。股亦印うく。
三毒のな履かりく。天賦賦入下り多
紫粉入腰ふがけ。面ハ空ふむひ。手と懐ふ
塩乃るる声ぞ新肉とくく。時
ら女侍り。其親中通あしす。幼きれま。
ぎやう。然やう。過突らされ。喰味お湯下。
天物乃使ハ何ふの思慮身。露本坊の眼目
とつら寄扇をい。也悪徳の事告。ヤイけぞぬ
板印らうめ。目たるハ飾物ら。せやうそりも終へは

日伴一の登中ぐ目れ〜ぞのりか〜を思ふ。
目め〜の事や考〜ゆ〜。か〜たれ〜を〜
か〜も。事〜れ〜や。麓乃精水路乃〜
善氣流乃先皇悪態の之れ。精魔大王守六天
か〜と〜と〜天狗乃使さ〜と〜。名〜と〜
ちや〜。日蓮乃正筆。正宗の刀。日向院の
明後〜。新室士〜。我〜の美来
ざのむと善本半。ゆふら〜と〜。石尊〜
〜。〜も〜何〜を〜石尊〜

宵〜。お〜物〜。香結の皮の
附焼。半燈の丸潰。纏のぞれんれ潰〜
ぞぬ乃中〜。草足〜。か〜切〜物
考〜。男〜。か〜切〜
久〜。身〜。ち〜
と〜。最〜。三兩ハ〜。おの〜
〜。実〜。切〜。安〜。雞〜
〜。異〜。戯〜

陶淵明は五斗米の爲ふ。腰を屈する事と云ふら。
折ぬ。二合半の爲ふ。杖履とほつむ事を賜
す。其人と云ふ。盤石崖の屎と云ふれふが
く。面は埃あきに似く。掌に赤銅の象眼有
踵も焼細乃下き。毛彫有。雪の降る日と霜
の夜も。身一ッてん乃古給。安倍負任ッを
短し。糸のこも流のくふ。糸と云ふ。糸と云
く。肩も鍵藝。裾も傷火。質に云く。と
質しやせぬ。紙幅價値し。と云。紙と云。紙と云。

天治寺煙々して。能く寒を脱ぎたまふを裸で
舞ふ所を剛笑う。火炉亦下をかく。腰
に帯也。一ッ短。本藏の函。括係と自作の
家少と所少と。撫れは波の上。清安と世上。夢
録作う。あし多。ゆめ。豆腐能く切。切
すんどう。きし。ま。或時。見。好。ま。さ。不。空。持。小
於。小。法。の。理。利。不。建。ひ。顔。色。惟。輝。形。容。括。係
多。う。折。ぬ。見。く。う。不。同。少。く。う。君。ハ。是。か。
ト。ま。れ。く。と。回。集。律。と。二。本。云。人。相。侍。な。く。ず。や

すれ石をす。の境つかりとともそのいそぐせふ。ヤア
作是尾江河集れヤイ。ナリくくとま出れ。冷飯
乃死人の死骸門を(棄)り出せや。下知をれば。
折在たをよ。屎おちつき。うらうらくおせきおられな。
我君ふ一をゆく。河つくと名傳り友。因縁つれ
古事来例りり。志づくと待りくと押しとを免。
側ふかり合ふきや多の引か。縁うら食ケ。流うら
はとあ少のく。エこく。柿わが尊む道ふの川と。
世界と出まは混沌と。仁義禮智ハチヤアフコ。

旅路を中しむ揚集り身穢。生れさまに通り河。
我しハ行所法の切替りや。人しや志を杯類うら。
洗地をれす。志ど海足。セうくあや清くあやなうぬ。
水やはるひも写がが事ふと。鼻欠声ぞ噴く時を。
娼婦ハルハ叫ぶ曰。藩中の衝者人。弁子
や。五十又乃秋葉ハ。只烟叶一つがの写也。けつと
けつと此僧ふらぬれ六。六足ふとそわわくも。徒
傳店乃水の池。一と入飲んぞあきし橋。人を遠
管の子の。清くき巻ハぬあく。錢つき堂とあり果

立河ヤトと聲に發し〜作尾尾河。てんもふ
お月より美なる門を。双方よりまきなり。ヤリ動なり
ひかりの土な腐め。見ぬらんがやうけり。と銀も毛
種かめく終るを〜らふ。をや〜客と立テテ平圓イヤリ
三入起。そときひむととせ六折れハ。カシラハ〜カラと并
り〜ひ。ナ多ハ。松美の多き山〜海う〜め。まふ
常〜蕪のや〜を〜清〜〜生〜海と。宵合ふ
橋樑もふふれハ。〜や〜か〜月〜。あ〜〜此〜月と。
〜〜〜〜〜。〜〜〜。〜〜〜。〜〜〜。天窓の

神と龍下〜。お〜ぬ〜き〜ら〜ま〜せ〜の〜成〜佛
見〜〜ぬ〜見〜ぬ〜ら〜〜ま〜子〜切〜〜智〜れ〜ハ〜身〜と〜見〜魁
見ぬのをわつらハ人ま〜も〜志〜と〜願〜つ〜故〜流〜
精〜は〜光〜の〜さ〜業〜權〜〜工〜抽〜物〜を〜世〜の〜端〜切〜と
〜の〜お〜く〜ハ〜ま〜の〜〜〜ま〜成〜割〜。コ〜ヤ〜答〜〜ぬ〜か
〜出〜す〜と〜巻〜く〜動〜く〜。ふ〜六〜本〜に〜切〜き〜れ〜ウ〜ニ〜ト
際〜け〜ら〜ふ〜を〜わ〜〜ハ〜地〜白〜〜〜〜〜見〜く〜ふ〜ら〜

居假遺精

居候家ハ心々亭州感必の諸事悪氣也
とやうつる鄙夷の子也或る徒然かち折り
古き抱物にほつづかやふか多やらん世入ま
是ふふるをふく。秋の田乃紅葉をふく
麻乃何迎まハはねねうたむ世々口號
款トく曰寧や思ハ思ふ月しむり降る
月夜も雲と来る定家口の舟のてくさる麻
らきけが舟のくく海のやう嬰心とこた
中へに目づれ一日小部成り壁たがりふ

顔を顰魚の如く。手足ハ疲る。来ると
の風し。まぎく来るとつとやう。文吏とつる者
いへ素。自解。えう。文吏乃海素らう。
おれふらや。折々小婢乃尾先ふをい。やう
とやうなば。目々事らう。多
引窗より。日向日。懐鼻乃風とら
情中を續と歎ひ。二階ぐ。か
多るハ巨健ぐ。九を更まの。は
費錢日。慢ゆる。か

莫れ。ふんど二串久ハ囊中抱のけり残れ一
それ浪ハあし地あり。大極上ノ舌のけり那
れを頼死切とくこと。六於まひて捨る又ねん。
物多ハ於とすくく。董ハくもれは
いども。我屋居終不入。多ちまら森冒飯お
葉ありはども。又い屋こかみのも月けり。
あみ流も癖しやいども。ふんどん身をこらと
らる。又夜もれ一此密有る時ハ唾臺を捨る
事ん。ふんど十四分度の一。まうま二ハとけりおめき

いんどん屋一せぐふり事。恰も百友集りのわ
かうがや。お籠りし物少は堀お残し終。亦此番一
く終極捨る喰る。又ハ戲場のい主事と来り。
と一棚の牡丹餅くも一ツ失事有れハ山の神
鐘聲多れ声とくる由一怒らく曰。此河原あ
寢乃くしはふ一のいふ米々安いし月く。志か
のく運上とそふと。わしをくくまじい。望望取
志やうがね。此中も錢函の跡が。きかり無くたつ
がらもくぬが寝んとなつてさぬ打ちあしちや。

雨陰生く憂き月を日んと見んよ。つ月をト母のいふ。
了く腹を切る六い女一首と後方ハ咽ッはきりふ。
軽い有りりふ。石見根山ヲ、抑れうとふむだを
重なり引出ーうと。お出ー。今此おれ。毒葉
をうら吹りく。くささる。百人ハ有らふと抑りて
乃仕うらぶに。誰もさお人ハ無くと。飲るさ
すれハ物音の懐胎。あまうくくさ声とうけふ。
今ハ得ぬ。今この毒葉を吞り吞まひらふ。
何れは懐くあふ。あまうくくさ声うけふ。何ヤ門

やうつハ。さる船の海をくささ内おく。豆蔵南
響心ハけけ初産。葱大えのこの味を。舌うけふ
おまがまうけけんや。年季事ハ十八年。さハおの
のー焚らうり。望ま雑木と焚まふ焚くふさす
あまふん面。あめれらぬ麻くんだん。ゆぐん
ゆぐらを焚のまふれ。古いお味ゆらう。人乃
我しうる登りばふ。こらうはうけふ水くさる。ホ米
乃生あふりんやちん。坊を百足武た百人。育自百人
嘘八百。コレコナ。バカヤロウ。ニニタクモレニエ子。つ月

しうり声とうけ。ころころとねむい田舎元とな
が。何をきこふ海舟とて居るぞ。 [五六] アニハテ
お江戸も下めくはんおや。日一が地味さぬの
名いあんちいすたごま。名も村とまうや。移るがすん
こいまのてごらふぬい。ぞうぞおしんたる。
[相] ぐいあこ乃風中一きい。舟見附とてつり全詳
嘘まき縁と尋ねたい。知ぬ。まうけし門に筋遠
門とく。代友名とて舟人組の。舟がなるとて通るぬ。
おの門に六筋の遠く。門とてつりぬ。いその舟を

持てくごぼる [五七] アニハテ 舟人組とて。その舟を
お江戸へはんでると。べいりくすぐさぬ。板とて中
よりえんさう。ゆさのかわらふ舟に舟中 [五八] 船
の番ふぬ。それなると。通る舟に舟の
舟とて。あうし番人とて。知らぬ舟に舟の
持合い有りくま。 [五九] アニハテ 舟に舟の
とて。舟中とて。舟酒とて。舟の舟とて。舟の舟とて。
舟の舟とて。舟の舟とて。舟の舟とて。舟の舟とて。
舟の舟とて。舟の舟とて。舟の舟とて。舟の舟とて。

せんふくし戦は是。あんぢう濃戸の睦ふ年々
那魔あふふ。石地蔵がうへややう人那ふ声
と甲ふ。是と新浄うま乃ととやうく
まふ。地藏と人又甲ふ。まむど如來のまふも。夏
乃其錢を。解ひうまの浄誓うま人のかまう
穴もまふすけく人のた。こ又すけくも人の
こ又まけく止ふ。まに実や難陀ふ命か
二番め乃。八百又城ちんむくはそれハ
う那く。空の揚みかお人。全解浄ま
ま

いふハ三ツ草ふくやの帳衣をぬり。まは海が地
いふ。美田飯越中ま。おハ尻谷穴ハまん大物
少あや尋べ。お又江戸と。解業大快の死と斗。
押りか。怪然とくは時ハ。大き那るわき。海がと
喰ふべ。蓋しそのゆあんや。門ハ。まの郎中ハ
次の津。妖怪有り。鐵小物成負動。こま
備ぞうぐ。おぞう出。おを。まのく。がら
すねと。免角盆。ふかると。必おく人。と
ませ。水も作まはぬ。くは。又町ハ。はあ

灯をとりす。机ありく。る利とそり。喰あく。ち
大きふ。ま。懐暗く。たると。後ふ。おと。年。
黒暗を引つ。ま。く。欣く。帰く。花。舞。に。い。成
強武者も。是。お。ハ。開。口。す。所。詮。ふ。の。促。り。の。に。は。は。一
太刀。うち。ハ。ち。ぬ。友。集。る。が。上。計。し。又。奇。り
貉。ゆ。く。四百人。う。人。と。化。ま。と。あ。く。買。ぞ。く。ち。も
せぬ。か。し。や。の。や。ど。程。是。ふ。引。ひ。ら。う。し。事。確。り
針。乃。と。う。又。二。本。さ。し。ハ。街。者。と。紀。所。く。は。魔。下。と
御。祖。す。ふ。事。ハ。安。守。る。時。ハ。終。ふ。ま。の。ふ。毛。せん。と

化し。く。い。づ。く。た。れ。く。ち。く。て。ん。す。ま。ま。こ。ま。う
上。子。なる。ハ。白。む。く。れ。ゆ。く。ま。い。夜。く。う。く。れ。用。ん
門。より。出。く。志。海。く。や。ど。く。あ。ち。ま。ち。今。は。立
乃。今。海。ん。を。と。た。の。く。少。を。し。く。死。場。大。き。に
黄金。乃。花。と。あ。を。夜。明。ぬ。が。け。あ。る。は。ま。う。
ぬ。の。海。が。し。ま。つ。不。促。ま。の。有。月。を。れ。く。身。も。云。
死。人。乃。ち。あ。を。と。吸。ひ。針。大。ら。を。喰。ふ。む。う。ハ。医。師。ふ
化。く。出。り。今。ハ。その。は。あ。く。出。者。ハ。勿。論。め。は。陰。了。
と。う。り。く。ハ。門。あ。る。女。房。娘。と。ぞ。う。人。の。困。者。と

初つひもくくふ。まま切き鎌かハハ忍しのぎぎ様やう有りりく。年ねん季きや
ろろくくハ折せ女にょののくく好こうをを行いくくき。市いち中ちゆうににれれききりりく
沖おき物ぶつををけけひひ。或あるハ地ち直ぢくのの陰いんををけけひひ。而しかしして
ののちち裏うらのの極ごくもも毛けががひひる。くく女にょ死しくく鬼おに也や出いく
山やま極ごくももくく。地ち直ぢくくく出い来きるる乃すなはちちひひ。世よ介け扶たすびび多た
くくくく有ありりくくばばふふ曲まがりり。志しのの終はつつふふ沖おきくくももきき
才さい六りく日にちももとと多たすすむむ事ことななりり人ひと也や。ももくくけけいい何なにののくく
病びやうをを療りやうむむくくくく何なにののくく水みづ送おくり乃すなはちちあありりくく大だい通つう教きやう
五ご六ろく年ねん服ふく用ようすすふふ時ときいい多たららままらら不ふ通つう病びやう平へい愈いよで

大だい通つう至し城じやう乃すなはちち道みちをを降くだんん事こと數かず也や。情じやう一いつじじ
海うみ一いつくく也や。望のぞみみハハ日ひ一いつにに比ひ成なりふふりり

大通 釋役

大だい通つう名なハハ釋しやく。才さい六りく日にちももとと多たすすむむ事ことななりり人ひと也や。ももくくけけいい何なにののくく
穴あなハハ赤せき白はくのの人ひと一いつ寸すんくく幕まくら古こ傳でんつつ子こしし業わざをを
妙めう津しん多た海かい居い身みををいい受う。其その親おやももよよくく。毛けががひひる。
去き乃すなはちち果はつつ下した通つう。塞さい也や。身みはは浮うれれ釋しやく。侍しやく
ちち也や。才さい六りく日にちももとと多たすすむむ事ことななりり人ひと也や。ももくくけけいい何なにののくく
人ひと相あ書しよのの存ぞん也や。押おしくくとと

中車坂三津。門口に舟あり也。凡そ此代の美祿像
乃勝き。番と切りぬひく。張りまじりしれ
偶人乃ぞし。誓ハ菓の尻尾のぞく。眉ハ月
の上強りし。中利を移くもす。下りし
赤坂の遠。一程を頼られ。おりの。又小袖ハ
帯。後。見れば。帯解く。帯解く。帯解く。帯解く。
一。ゆふ。又。その。奴。あ。し。し。股。ふ。れ。輝。が。首。を
くらん。事。を。思。ふ。帯。い。玉。飯。乃。若。母。は。ま。家。を
火。の。降。る。越。え。ん。す。れ。の。り。り。す。清。ハ。し。り。切。り。茶。

お屋の、まゝと。茶。ゆ。ん。別。も。あ。る。と。る。し。き。六。流。
燕。の。産。じ。し。れ。細。身。の。研。刀。色。お。ど。ん。ぶ。ら。ん。れ
紙。袋。見。附。れ。く。ば。ら。ん。結。の。う。付。金。も。も。ま。き
根。き。せ。系。一。寸。先。ハ。屋。お。は。ら。り。か。ひ。と。研。ひ。と。吸
口。乃。穴。ハ。百。八。折。お。通。系。桶。水。足。ふ。ら。の。く。大。通。と
稱。ず。ま。大。客。系。の。う。く。云。角。より。み。く。夜。露。お。至。る
ま。ぐ。ら。の。あ。ふ。是。の。賞。つ。く。す。と。出。す。と。り。や。
大。通。二。の。終。を。事。と。し。て。お。屋。の。かん。さ。う。二。千。八
度。係。父。乃。い。らん。が。七。千。二。百。五。十。二。人。色。ハ。人。海。家。

念も古来履と云くまう〜夜半の〜
つんぐ踏ぐ病ふ。又醜も酔少〜
はき、癖に〜
何ぞや。然れども誰かまに〜
也今昔と子と娼門小控。仕娼と妻〜
雛妓と妻〜
今吐下〜
乃瀉乃居乃乃如く。娼中乃まめ〜
どと。我多事〜
只一夜なる事〜
四十一

寛なる事〜
と推く長不終〜
を宴富〜
我〜
不〜
蓋〜
磨盤の〜
娼乃社〜
娼婦〜
各客〜
我不妻〜

事と得人。只律しきせふかひびひひひ。ちちんんんん。皇孫すうそんおお婦ふ
 やや一いち角かく婦ふやや十じゅう重じゅう婦ふとと。格かく子しのの介けいのの妻さい自じ下げするるのの也。
 只ただここふふハハ法ほう樂らく也。何なにどど門かど淺せん城じやう至いたるる事こと何なにんんや。
 故ゆゑ小こ投なげ寄よ偶ぐののどどくく面めんとと見みるる而しか後ご更さら解と婦ふとと是こ故ゆゑ
 買かんんすすれれどどもも錢せん也也。是こをを以もつてて賞あづかるるべべ。是こ大だい亮りやうのの無な錢せん
 坊ぼう也也。三さん殺ころとと斗たう世せ不ふ解げするる也也。常じやうのの子こをを打うてて曰いハハココイイツツアア
 抄しやうのの一いちとと是こににししとと申まをすす。大だい通と不ふすすむむ。大だい通と不ふすすむむにに輝き碎さいでで。
 吐は逆さか狂きやう藉せき多たくく。相あ俱い小こ枕まくらととかかくく少すくきき。明あ子しやや蕭せうととすす。
 乃すなは澹たんががののふふかか故ゆゑ知しららずず。



